



第 11 号

1991年 9 月

岡山県古代吉備文化財センター

▲ 西江遺跡 (哲西町) 出土特殊器台文様

中国横断自動車道関連の発掘調査終了

中国横断自動車道の建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、昭和62年度の第一次調査に引き続いて平成元年度4月から実施され、本年度9月をもって終了しました。その間、作業員の方々をはじめとして、多くの地元の方々のご協力を得ました。本当にありがとうございました。

調査の結果、遺構の存在が明らかになった遺跡について、次に概要を説明します。

中山西遺跡

水晶でできた旧石器が出土し、また縄文時代早期の竪穴住居跡や動物捕獲用と考えられている「落とし穴」も検出しました。

城山東遺跡

旧石器時代からの生活の痕跡が認められますが、主としては、弥生時代の小規模な集落と奈良時代の溝や鍛冶炉を伴う掘立柱建物群を検出

しました。

下郷原和田遺跡

弥生時代末から古墳時代前半にかけての竪穴住居跡が30軒以上検出され、その内数軒からは碧玉片が多く出土しました。玉作りに関係した集落が営まれていたと考えられます。

下郷原田代遺跡

No1地点は、上記の和田遺跡に近く、検出された竪穴住居跡からは碧玉製管玉などが出土しています。建物7棟、落とし穴8基も検出されました。No2地点には、旧石器時代からの生活の痕跡が認められ、縄文時代には40基の落とし穴が掘られていました。

上野遺跡

縄文時代の遺構としては落とし穴が多数検出されました。また、弥生時代後期から古墳時代初



空から見た中原古墳群 (3～7号墳)

頭には集落が営まれていたようで、竪穴住居跡12軒、掘立柱建物9棟、貯蔵穴58基などが検出されました。そのうち2軒は火事で焼けた焼失住居で、貯蔵穴のいくつかには柱穴を伴うものがあり、覆屋等の上部施設の存在が想定されます。その他、周溝のみの残る古墳が2基検出されました。

木谷古墳群

弥生時代後期の竪穴住居跡や段状遺構、袋状土壇の他、6世紀後半から7世紀初頭と推定される横穴式石室墳9基などを調査しました。特に11号墳は小規模な石室にもかかわらず、装飾付脚付子持壺やトンボ玉を含む大量の遺物が出土しました。これらの遺物の出土状況は、当時使用していた豊富な須恵器の種類を知ることができるだけでなく、古墳における数次埋葬の葬送儀礼を考えるうえでも貴重な資料を得ることができました。

大内原散布地

台地上の東区と丘陵裾部の西区を調査しました。東区上層では明治時代以降の土壇や柱穴、下層では中世の溝と土壇を検出しました。西区では溝1条と柱穴4個を確認しました。

中原古墳群

5世紀中頃から後半の箱式石棺を内部主体とする古墳31基の他、6世紀後半の横穴式石室墳2基、7世紀前半の小竪穴式石室墳1基などを調査しました。これらのうち箱式石棺墳は方墳



元定古墳群調査風景

と円墳で、葺石を持つものもありました。出土遺物は24号墳とK号墳の周溝からの初期須恵器の他、箱式石棺墳全体では竪櫛、勾玉、管玉、鉄刀、鉄鏃、鉄斧、紡錘車などが出土し、人骨も7基の石棺から検出されました。5世紀代の箱式石棺墳群における埋葬形態を解明する手がかりをつかむことができました。

元定古墳群

縄文時代のものと考えられる落とし穴が若干検出されましたが、人々の営みが盛んになったのは弥生時代後期以降のようで、その頃から古墳時代前半までの竪穴住居跡24軒、掘立柱建物5棟、土壇数基が検出されました。建物のうち2棟は弥生時代後期の総柱建物と考えられます。また、古墳も14基検出されましたが、大部分は周溝のみが残っている状態でした。その他、江戸時代以降の建物跡や土壇、土壇墓などが検出されました。(松岡浩太郎・安井 悟)

中国横断自動車道建設に伴う発掘調査一覧表(確認調査を除く)

	遺跡名	所在地	遺跡の内容	調査期間	面積(㎡)
1	中山西遺跡	川上村中山西	縄文集落跡、旧石器など	88.4.~9.、 89.4.	3,516
2	城山東遺跡	川上村城山東	弥生~奈良集落跡	88.8.~12.、 89.4.・5.・10.	9,858
3	下郷原和田遺跡	川上村西茅部	弥生~古墳玉作り関連集落跡	89.5.~8.	2,800
4	下郷原田代遺跡	川上村西茅部	縄文落とし穴、弥生集落跡、 旧石器など	89.6.~12.	4,950
5	上野遺跡	久世町檜西	縄文~古墳集落跡	89.4.~90.2.	6,731
6	木谷古墳群	久世町目木	弥生集落跡、古墳、中近世墓	89.9.~90.5.	3,900
7	大内原散布地	久世町目木	中近世集落跡	90.6.	900
8	中原古墳群	久世町中原・目木	古墳、中世墓	90.2.~91.9.	15,000
9	元定古墳群	落合町上河内	弥生集落跡、古墳	90.11.~91.5.	6,600

みそのお古墳群発掘調査終了

御津郡御津町高津では、昨年度に続きみそのお古墳群ほかの発掘調査を実施してきました。調査は9月末では終了し、弥生時代後期から古墳時代終末期にかけての墳墓群の他、製鉄遺構など多くの成果が得られました。

このうち墳墓群については、弥生時代後期の初めから古墳時代前期にかけて継続してつくられたもの約40基、5世紀後半のもの3基以上、7世紀中頃のもの1基がみつかり、墓壙総数は約400基を数えます。これらは二度の空白期を挟みながらも、およそ600年以上の長期にわたって営まれたものであり、これらを全て調査することは極めてまれな例といえるでしょう。墳墓は基本的に平面長方形あるいは正方形で、地山を掘削、盛土して、側面を石垣状につくっていますが、大半は盛土、石垣を失っており、墓穴だけ残るものも少なくありません。墓穴には大半が木棺を納められており、その痕跡



5世紀後半の方墳

が残っているものもあります。また、木棺を埋めた後、高坏などの土器を供えているものも多く、木棺内部には鉄器や玉などの副葬品が少数見つかっているにすぎません。こうした墓穴の形や数、副葬品、墳墓のつくり方や分布状態など様々な点において変化がみてとれます。例えば墓穴の形から推定される木棺のタイプにしても、5回以上の変化がわかっており、しかもこの変化は他の変化と関連しているようです。変化の仕方も、徐々にというよりはある時期を境に全体的に変化している場合も多くあるようで

す。こうした現象はこの遺跡だけに起きているものではなく、県内の他の遺跡においても同時進行していた可能性があり、当地域の弥生時代から古墳時代の墓制、ひいては社会構造を研究するうえで欠くことのできない資料といえるでしょう。



弥生時代後期後半の墓壙群

この他調査終了間際に、製鉄炉、炭窯といった鉄づくりに関連した遺構が点在して見つかりました。炭窯は、いわゆる「やつめうなぎ」と呼ばれる半地下式のもので、4基みつかります。製鉄炉や鉄滓の捨て場は谷底近くにみられ、一部は炭窯周辺にもみられます。これらは遺物をほとんど出土しておらず、確かな時期は不明ですが、他例から推定して7世紀を前後する時期ではないかと考えています。(橋 真治)



弥生時代末の墳墓

たます
田益遺跡—岡山市田益—

山陽自動車道建設に伴う岡山市工務事務所関係の埋蔵文化財発掘調査は、平成2年12月に調査が完了していました。しかし、津高地区の津高条里制遺構については、平成3年2・3月に確認調査が実施されました。その結果、条里遺構ではなく弥生時代から古墳時代にわたるの遺構の存在が明らかとなりました。このため山陽町関係の発掘調査に入る予定であった調査員10名が、急遽4月から6月までの3ヵ月間で橋脚部分と南北側道の調査を実施しました。

遺跡は大字名をとり田益遺跡とし、調査区の西からA—Cとしました。A区は水田下約70cmの深さで遺構検出面（明黄色粘質土：海拔6.5—7m）に達します。検出遺構は溝・土壇・柱穴などの集落遺跡であることを示す遺構が主体で、弥生時代前期から平安時代にかけての遺物が出土しています。弥生時代前期から中期にかけて機能していたとみられる南北方向の大溝からは土器・石器をはじめ種子・木片なども出土しており、当時の自然環境を示唆しています。B区は自然河道・湿地帯を挟んでA区の東400m程のところに位置しています。現水田

下約70—80cmのところで遺構検出面に達します。検出した主な遺構は、堅穴住居・井戸・掘立柱建物・土壇墓などで、B区東端の土壇墓のひとつからヒスイ製の不定形勾玉が出土しています。この土壇墓は伴出遺物から弥生時代中期初めと考えられます。勾玉の大きさは長さ2.4cm・厚さ0.4cmで緑がかかった乳白色を呈しています。その他の遺物としては縄文時代晩期の土器片が何点か見られます。また公団の用地内北端と国道53号線バイパスが接するあたりから西南方向にかけては大きな河道が見られ、水田下4—5mの川底を中心にして弥生時代前期から中期の大量の土器・石器・木器・種子・流木などが出土しています。C区はこの河道の約80m東側にありますが遺構・遺物はほとんど認められませんでした。（調査第三課）



B区土壇墓出土
ヒスイ製勾玉



田益遺跡調査区関係図

はすいけじり
蓮池尻遺跡—吉備郡真備町—

蓮池尻遺跡は、井原線の建設に伴って発掘調査しました。調査地点は、「呉妹銅鐸」の出土地として知られる吉備郡真備町妹に所在します。調査は、今年4月から8月にかけて実施しました。遺構としては、溝、土壇、柱穴等を検出しましたが、数は少なく、遺跡の端部に近いものと考えられます。遺物も多くは出土していませんが、前期弥生土器がまとまって検出されました。それらは、遺構に伴うものではなく、洪水等によって流されてきたものですが、復元すれ

ばほぼ完形になるものもあり、比較的近い位置に同時代の遺構が存在するものと考えられます。土器の時代は、主として弥生時代前期の後半に属するものと考えられます。

(井上 弘)



みなみみぞで
南溝手遺跡—総社市南溝手—

「馬養」線刻須恵器出土

岡山県立大学建設に先立ち、発掘調査が進められている総社市南東部の南溝手遺跡で、平安時代の水田畦畔から、「馬養」という文字が線刻された須恵器の壺が出土しました。

水田畦畔は、幅約1.2m、高さ約10cmで、土をもりあげて作っています。壺は、このもり



「馬養」近影

あげた土の中から、割れた状態で、馬の歯をともなって見つかりました。

壺には、胴部に把手状のものが二つ残っており、全体を復元すると、もともと三つあったと推定され、三耳壺と呼ばれるものです。

三耳壺の大きさは、現存高23.5cm、胴部径23cmで、この胴部に見事な筆致で、「馬養」と線刻されています。

この「馬養」の文字がなにを意味しているのかは今のところわかっていません。人の名前、土地の名前、職業の名前などの可能性が考えられます。

当時、馬は貴重な財産であり、その馬の歯とともに「馬養」と線刻された三耳壺が出土したことから、馬を生け贄にした雨乞、忌拔えなどの官が係わった古代祭祀が行なわれたものと考えられます。
(大橋雅也)

竪穴住居から管玉未製品出土

県立大学建設に伴う総社市南溝手遺跡の発掘調査において、弥生時代前期（今から約2,200年前）の円形の竪穴住居跡から多数の石器に混じって、緑色凝灰岩製の管玉の未製品が2点出土しました。

管玉とは円筒形をした玉で、真ん中には紐を通す穴があいているものですが、2点ともまだ穴をあけていませんでした。1点は直径3mm・長さ12mm、もう1点は直径6mm、長さは途中で折れていて不明です。

また、同じ住居跡内からは管玉と同質の緑色凝灰岩片や穴をあける時にキリのようにして使われたと考えられているメノウ片、さらには玉作りに使ったと思われる叩き石や台石、砥石なども出土しており、この住居内で玉を作っていたと思われます。当時は、石器作りと同じように、日常生活の中で玉を作っていたのでしょうか。

縄文時代晩期に朝鮮半島から伝わり、弥生時

代前期中葉には日本での製作が始まったとされる管玉作りが、この岡山県でも弥生時代前期に既に行われていたことは大変重要な発見です。また、未製品や材料片の少なさから、数多く生産して周辺の地域に供給していたのではなく自給のためだけに作っていたとも考えられ、当時の玉作りのありかたを考えるうえで大変興味深い資料です。
(久保恵里子)



竪穴住居検出状況

普及啓発事業

I. スライド発表会

－「最近の岡山県下における埋蔵文化財発掘調査概要の報告会」－

平成2年に岡山県内で実施された埋蔵文化財の発掘調査は、文化財保護法に基づく届出及び通知の件数によれば、76件を数えています。その成果の一部は、新聞・テレビ等の報道機関を通じて速報されて話題となったり、いくつかの調査で開かれた現地説明会に多くの見学者が詰めかけるなど、埋蔵文化財の普及に貢献しています。

そこで、当センターでは、調査成果のより一層の普及を図るため、本年度もスライドによる発掘調査概要の報告会を、関係機関の協力により、下記の内容で開催しました。県内外からの140人を超える参会者と発表者の間で、熱心な質疑応答も交わされ、昨年度より30分延長した定刻ぎりぎりに終了しました。

1. 日時 7月20日(土) 13:00～17:00

2. 場所 岡山県立博物館 講堂

3. 発表遺跡

(1)窪木・南溝手遺跡(総社市)……古代吉備文化財センター

(2)千引遺跡(総社市)……総社市教育委員会



(3)窪木薬師遺跡(総社市)……古代吉備文化財センター

(4)古城池南古墳(倉敷市)……倉敷市教育委員会

(5)長畝山古墳群(津山市)……津山市教育委員会

(6)近長丸山古墳(津山市)……津山市教育委員会

(7)服部廃寺(長船町)……長船町教育委員会

(8)政所遺跡(岡山市)……古代吉備文化財センター

II. パネル展示

前述のスライド発表会においても、県内で実施された多数の発掘調査の一部しか報告できないため、今年度は新たな試みとして、発掘調査



スライド発表会当日の展示

中のカラー写真による記録をパネル展示することとし、スライド発表会当日、同会場の壁面を利用して実施しました。

基本的に昨年度調査された遺跡を対象とし、一部スライドによる発表の行なわれたものも含めて17遺跡23枚のパネルを、前記の機関の他に岡山市教委・山手村教委の協力を得て作成することができました。各遺跡を代表する遺構を選び、これに簡単な解説を付けて展示しました。

当日はこの展示を見ていただく十分な時間が確保できなかったため、後日当センターのエントランスホールに展示し、9月には岡山市内のデパートにおいても5日間展示しました。

Ⅲ. 平成3年度『夏休み少年考古教室』

当センターでは、郷土の歴史の理解と埋蔵文化財の愛護思想を高めることを目的として、小学校高学年の児童を対象とした「夏休み少年考古教室」を毎年開催してきました。

本年度は、岡山市立平津小学校6年生41名の参加を得て、8月22日にセンターにおいて実施しました。

午前は、導入としてセンターの施設見学及び考古学入門学習が行われました。収蔵庫の遺物の量に驚き、また、電動の土器実測機械の実演には好奇心の目が注がれていました。

午後は、土器の復元・文様の復元・火おこし・石器づくりなどを体験しました。土器の復元では、初めて触れる土器に戸惑いながらも熱心に接合にチャレンジしていました。日おこしでは、回すリズムがつかめず悪戦苦闘していましたが、発火に成功したときには大きな歓声が上がっていました。石器づくりでは、頭に描いていた整った形にはできなかったようですが、鋭いサヌカイト片の切れ味に感心していました。

台風接近による天候不順のため2日の日程が1日に短縮され、例年人気の野外での炊飯学習と遺跡見学が中止となりやや残念な思いの残る今回の教室でしたが、児童からの感想は全般に好評を得ることができたようです。

日 程

8月22日(木)

10:00	開講式
10:20	センター施設見学
11:10	考古学入門学習
12:00	昼 食
13:00	体験学習(1) ・土器の復元 ・土器文様の復元
14:30	体験学習(2) ・火おこし ・石器づくり
16:00	閉講式



土器実測の説明



土器の復元



まいぎりによる火おこし



複製石器の実験

岡山県古代吉備文化財センターの組織と職員 (平成3年度)

<組織>



<職員>

所次	長	横山 常實
総務課	長	河本 清
総務係	長	藤本 信康
課長補佐(係長)	小西 親男	
主査	平松 郁男	
主任	坂本 英幸	
主事	大西 治郎	亀山 幸治
	渡邊 徹也	
調査第一課	長	葛原 克人
第一係	課長補佐(係長)	松本 和男
	文化財保護主任	桑田 俊明・平井 泰男 光永 真一

文化財保護主事	宇垣 匡雅・川崎新太郎
	大橋 雅也・柴田 英樹
	久保恵里子・守屋 佳慶
第二係	長 山磨 康平
文化財保護主査	江見 正己
文化財保護主任	島崎 東・吉久 正見
文化財保護主事	長川 優
	椿 真治・竹原 伸之
調査第二課	長 正岡 睦夫
文化財保護主幹	高畑 知功
第一係	長 平井 勝
文化財保護主査	藤田 耕平・岡本 寛久
文化財保護主事	弘田 和司
	村田 秀石
第二係	長 浅倉 秀昭
文化財保護主査	中野 雅美
文化財保護主事	亀山 行雄
	古市 秀治
第三係	課長補佐(係長) 井上 弘
文化財保護主査	古谷野寿郎・内藤 善史
主事	横山伸一郎
調査第三課	長 伊藤 晃
文化財保護主幹	下澤 公明
第一係	長 岡田 博
文化財保護主査	二宮 治夫・窪田 廣志
	野上 和信
文化財保護主事	山本 了峰・平松 義則
	横山 定・長門 修
第二係	長 福田 正継
文化財保護主事	松岡浩太郎・安井 悟
	氏平 昭則



編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-01
岡山市西花尻1325-3
電話 (0862)93-3211

●交通案内

- ・JR山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分
- ・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分
- ・JR岡山駅下車岡電バス岡山駅前より神道山行終点下車徒歩5分